

企業からの相談で多いのは、「部下のやる気を出させるにはどうしたらいいでしょうか」というものです。

本来は、やる気などなくても会社がまわっていく仕組みをつくれればいいだけです。

間違っているのは、「やる気を出せ出せ」と言っただけで、仕組みをつくらないうで、やる気を出させようとすることです。

やる気は、精神の問題です。

精神の問題は、精神では解決できません。

精神の問題は、仕組みで解決します。

やる気がなくても仕事がかどる仕組みをつくることです。

その仕組みで動いているうちに自動的にやる気が出てくる仕組みをつくることです。

個人においても、やる気は最初からは出ません。

朝起きたら、誰でもボーッとしています。

朝起きてやる気が出ている人は、むしろ故障です。

人間の身体は、やる気を出すまでにタイムラグがあります。

動いていると、脳の中の側坐核そくざかくにスイッチが入って、作業興奮が起こります。

「やる気」とは、行動して作業興奮が起こった状態です。

行動する前から興奮しているのは故障です。

上司は部下に過度な興奮をさせないようにすることです。

行動していないのにやる気のある人は危ないです。

あるところで、いきなりウツになります。

会社の中でウツになる人は、やる気のありすぎる人です。

上司は、一方で「部下のやる気が出ない」と言いながら、もう一方で社内のウツの問題に困っています。

「やる気を出せ出せ」と言うから、部下は余計ウツになるのです。

やる気の出る仕組みをつくるのが、上司の仕事なのです。